

「川」から「川・水環境」へ名称をアップデート、「川と関わる山や海、湖沼で活動」を行っている人々への参加を求めた北東北のワークショップ。秋田、青森、岩手の三県から集まった24団体が盛岡を暑くする？

2004.02.01 犬山清史（全国水環境交流会）



北上川の支流、中津川（撮影：堺かなえ）



復活選考から第2次審査へ

■日中マイナス8度が普通

「今年は暖かいね。こんな感じで暖かくなったり寒くなったりの繰り返しだね。」とタクシーの運転手。私にとっては日中ゼロ度だって十分寒いけど、盛岡のに来たなら冷麺食べないと。早速駅前のお店に直行。ぬくぬくのお店の中で食べる冷麺の味はまた格別です。

■羊の皮をかぶったオオカミたち

東北の方々の気性なのでしょうか、ワークショップは「静かに熱く」盛り上がっていきます。全体会の後、一次審査。6団体×4部屋に分かれるのですが各部屋には鳥の名前が付いています。わたしは白鷺の部屋の機材担当なので6チームしか発表を聞くことができなかったのですが

「ほほ〜」「あ〜なるほど」と感心させられる内容ばかり。中学生が水質調査をしたら川の汚染源が特定できてしまった。〇〇さんの家からの排水が原因だとわかったが公表できない、なんて「ヤバイ」ネタがあったりしてハラハラさせられます。歌や踊りといったパフォーマンスはないけど中身は実に深い。オリジナリティあふれた活動内容は川の日ワークショップでも台風の目になること間違いなし？

なお、当時の結果等はこちらに掲載されています。
水環境ネット東北